埼玉県立
歴史と民俗の博物館

彩の国埼玉県

THE MUSEUM

Vol.8-2 第23号 2013.9.17

Saitama Prefectural Museum of History and Folklore

(左上) 狩野栄信「花鳥図」(部分)、板橋区立美術館蔵／(右上) 橋本雅邦「双龍図屏風」(部分)、神奈川県立歴史博物館
(下) 「橋本雅邦肖像」(「近世日本画大観」より転載)

本展は木挽町狩野家とその弟子でもあった橋本雅邦を取り上げた、これまでにない展覧会です。

江戸時代と明治時代を生きた橋本雅邦を、「近代日本画家」としてのみではなく、江戸時代の「狩野派絵師」としてもとらえます。幕府や大名家から依頼された華やかな江戸絵画と新たな時代を反映した明治の「日本画」をともに展観します。江戸から明治へという時代の変革期を生きた橋本雅邦の作品を御覧いただき、そこに体現された日本美術の変貌をお楽しみください。

特別展
狩野派と橋本雅邦

10月12日（土）～
11月24日（日）

狩野派は室町時代の狩野正信にはじまる、400年の歴史をもつ絵師集団です。各時代の権力者に仕え、江戸時代には、諸藩の御用絵師を教育し、全国に弟子を抱えました。江戸の地で活躍した狩野派を総称して、江戸狩野と呼びます。その江戸狩野のリーダー的存在に、木挽町狩野家という一家がありました。このたび開催する特別展「狩野派と橋本雅邦－そして、近代日本画へ」の「狩野派」とは、この木挽町狩野家のことです。

■　第１章　木挽町狩野家と橋本家

図１　筆者不詳「狩野典信像」（模本／部分）
東京藝術大学蔵

展覧会の冒頭では、木挽町狩野家の歴代と橋本家の絵師を取り上げます。木挽町狩野家の中興の祖といえる６代目狩野典信（図１）から、幕末をむかえた10代目雅信までを紹介します。

木挽町狩野家は、親から子へと血脈で家系が守られ、将軍に謁見する立場にあった家柄でした。そして、雅邦が生まれた橋本家は、代々、木挽町狩野家の弟子でした。雅邦の曾祖父も絵師であり、木挽町狩野家に仕えていたことがわかっています。

雅邦の父養邦は米商でしたが橋本家の婿養子となり、狩野家に弟子入りしました。着彩に秀でた人物であったといわれます。

図２　狩野養信他「平治物語絵巻」（模本／部分）
東京国立博物館蔵（Image:TNM ImageArchives）

図２は、９代目狩野養信や橋本養邦らが制作した「平治物語絵巻」の模本です。絵具の剥落など画面の損傷具合までもつぶさに写しています。江戸時代後期は、古画の模写などが流行した時代で、木挽町狩野家の模写事業は特に充実していました。現在では、それらは貴重な絵画資料となっています。

■　第２章　埼玉と木挽町狩野家

次に、埼玉と木挽町狩野家の関係を紹介します。実は、木挽町狩野家の領地は埼玉県にありました。同家は、宝永７（1710）年に、大里郡の沼黒村と和田村（ともに現在の熊谷市）を領地として拝領し、石高は200石でした。文化８（1811）年には、その領地が替わり、樋ノ口村（現在の久喜市）を与えられました。つまり、木挽町狩野家は、埼玉県域の米を禄として与えられていたのです。時には埼玉産の米を食べていた、かもしれません。

本展で展示初公開するのは、樋ノ口村の地に伝存した資料です。同地には、年貢に関する古文書

や木挽町狩野家の人々の書状、村人へ下賜されたであろう作品などが伝わっています。雅邦の父養邦の書状もあります。

■　第３章　木挽町全盛期

木挽町狩野家は、幕府や大名の御用をつとめた家柄です。その例として下の作品を紹介します。

図３　狩野養信「源氏物語子の日図屏風」（部分）
遠山記念館蔵

図３は後に第 13 代将軍になる徳川家定（いえさだ）に嫁入りした有君（ありぎみ）の婚礼調度として、狩野養信が描いた華麗な屏風です。主題は源氏物語で、当時の婚礼調度によく描かれた画題です。つい最近、完成したかのような色のあざやかさで、描写が緻密な作例です。ぜひ御覧いただきたい狩野養信の代表作の一つです。

図４　橋本雅邦「水雷命中之図」
東京国立博物館蔵（Image:TNM Image Archives）

■　第４章　明治維新
ー盛者必衰、そして橋本雅邦へ

以上のような充実した作画活動をみせた狩野派も、幕末をむかえ幕府が倒れると御用絵師としての地位を失います。それは狩野派の組織としての瓦解を意味します。狩野派の弟子で、明治維新を川越藩士として迎えた橋本雅邦も同様に失職しました。

困窮した雅邦は、明治４（1871）年、兵部省海軍兵学寮（後の海軍省）に勤めはじめました。海軍省では他の狩野派絵師も職を得ることができましたが、その仕事は海図の製作など江戸時代とは全く異なる仕事でした。

この頃、雅邦は油絵にも挑戦しました。図４は雅邦の油絵作品で、水雷が命中したまさにその瞬間を描いています。

明治初期には西洋文化が流行しますが、その後、やや揺り戻し、伝統的な絵画が見直されはじめると、雅邦は画家として再評価されました。それは「日本画」という言葉の成立と軌を一にしています。明治 22（1889）年には、開校したばかりの東京美術学校（現、東京藝術大学）の教官となります。雅邦、数えで 55 歳の時でした。同校では、第一期生の横山大観（よこやまたいかん）や菱田春草（ひしだしゅんそう）ら次世代を担う日本画家の育成に尽くしました。「近代日本画の父」と呼ばれる雅邦の最盛期は、まさに、この後半生のことなのです。

（展示担当　浦木賢治）

図５　橋本雅邦「月夜山水」 東京藝術大学蔵

企画展 圏央道の遺跡 ～埼玉の発掘調査 西から東から～

平成26年1月2日(木)→2月16日(日)

埼玉県立歴史と民俗の博物館

県内には１万箇所を超える、貝塚や古墳などの遺跡（埋蔵文化財包蔵地）が確認されており、土木工事等に伴い年間200件前後の発掘調査が実施されています。

冬の企画展では、入間市から幸手市へ、埼玉県を東西に横断する圏央道（正式名称は一般国道468号首都圏中央連絡自動車道）の建設に伴って発掘調査された代表的な遺跡の出土品を一堂に展示します。旧石器時代から江戸時代に至る多様な遺構と遺物から新たに明らかとなった埼玉県の歴史を、考古学的な研究成果を踏まえ、わかりやく紹介します。

展示期間中には下記の関連事業を予定しております。是非、ご参加ください。

【記念講演会】
２月11日（火・祝）13:30～15:00
演題：「発掘された弥生のムラ（仮題）」
講師：禰冝田佳男氏（文化庁文化財部記念物課埋蔵文化財部門主任文化財調査官）

【担当者が語る遺跡調査成果報告会】
２月１日（土）13:30～15:30
①「狭山市西久保遺跡」（旧石器時代）
②「桶川市諏訪野遺跡」（縄文時代）
２月８日（土）13:30～15:30
③「川島町富田後遺跡」（古墳時代）
④「川越市宮廻館跡」（鎌倉・室町時代）
※講師は①西井幸雄氏、②渡辺清志氏、③福田聖氏、④木戸春夫氏（①～④全て（公財）埼玉県埋蔵文化財調査事業団職員）

【歴史民俗講座】
１月18日（土）13:30～15:00
演題：「圏央道の遺跡発掘調査でわかったこと」
講師：中山浩彦（当館学芸員）

※各イベントの申し込み方法等につきましては、ポスター・チラシ・当館ホームページ等をご確認ください。

ここでは、企画展展示資料の中から特に注目される遺跡や出土資料について、時代を追ってご紹介します。（写真提供：埼玉県教育委員会）

《旧石器時代》

旧石器時代の遺跡は、県西部の武蔵野・入間台地上で入間市西武蔵野遺跡、狭山市西久保遺跡、鶴ケ島市横田遺跡などが見つかっています。

西久保遺跡では、旧石器時代後期のナイフ形石器の製作跡が発見され、約3,000点出土した石器類は、一括して県の有形文化財に指定されています。

打製石斧（横田遺跡）

《縄文時代》

縄文時代の遺跡は、圏央道の路線内から数多く見つかっています。

川島町東野遺跡は、荒川右岸の河川敷から発見された遺跡で、現在の地面の約4.5ｍ下から前期の竪穴住居跡８軒や土壙などが見つかりました。遺構内からは、動物（イノシシか？）の骨や炭化したクルミなどの植物の実が出土しています。

東野遺跡全景

桶川市前原遺跡の中期後半の竪穴住居跡から出土した台付き特殊両耳壺は、トロフィーの形に似た大変珍しい形と文様を付けた土器です。高さが約40㎝とやや大型で、他に類例がないため、用途はわかっていません。

縄文土器（前原遺跡）

《弥生時代》

圏央道建設地内で調査された遺跡のうち、弥生時代の遺跡は中期後半の坂戸市木曽免遺跡1例のみでした。

木曽免遺跡は、荒川低地を臨む入間台地の縁辺に立地する集落跡で、検出された 11 軒の竪穴住居跡の外側に環濠と呼ばれる深さ約１ｍの防ぎょ用の溝が巡っているのが特徴です。環濠内からは、集落の廃絶に伴って捨てられた弥生土器が多量に出土しました。

集落を巡る環濠（木曽免遺跡）

《古墳時代》

古墳時代前期の遺跡は、前述した木曽免遺跡、前原遺跡のほか、川島町の白井沼、富田後、元宿遺跡、久喜市神ノ木2遺跡などが調査されました。

川島町内で見つかった低地内に営まれた集落跡では、方形に狭小の溝を巡らす周溝状遺構と呼ばれる遺構が多数検出されました。白井沼遺跡では、県内では出土例が少ない駿河地方の土器が多く出土し、他地域と交流を持つ拠点的な集落であったと考えられます。同遺跡からは、赤く塗られた鶏形土製品も出土しています。

鶏形土製品（白井沼遺跡）

前原遺跡は、荒川左岸の大宮台地西縁に位置する集落跡で、水晶や緑色凝灰岩などの石材を利用した勾玉・管玉の工房跡が見つかりました。東松山市反町遺跡とともに、関東地方では最古級の玉造り集落であることがわかりました。

水晶原石の出土状況（前原遺跡）

後期の遺跡として、富田後遺跡、前原遺跡、神ノ木２遺跡の３遺跡で集落跡と古墳跡が見つかっています。発掘された古墳は、丸い形の円墳が多く、盛り土は削られていて堀の跡だけが見つかっています。

神ノ木２遺跡では、古墳とは別に、鉄剣・鉄刀・鉄鏃などの副葬品を納めた、上下２段に掘られた長方形の土壙墓が見つかりました。人骨は発見されませんでしたが、下段には木棺が納められていたと考えられています。

後期の土壙墓
（神ノ木２遺跡）

《奈良・平安時代》

奈良・平安時代の遺跡は、入間市から坂戸市にかけての武蔵野台地上と川島町の低地部から集落跡が見つかっていますが、桶川市以東の東部地域では遺構・遺物は見つかりませんでした。

川越市と日高市に拡がる光山遺跡群では、奈良時代の竪穴住居跡55軒、掘立柱建物跡40棟等が調査され、高麗郡東部の有力な集落と考えられています。住居内から轡、掘立柱建物跡からは鍵などが出土していることも、その証左となっています。

鉄製轡（光山遺跡群）

鉄製鍵（光山遺跡群）

《鎌倉時代～江戸時代》

中世の遺跡では、低地に営まれた鎌倉時代の館跡である川島町堂地遺跡、室町時代の土塁が良好に残存する川越市戸宮前館跡、宮廻館跡などが調査されました。

宮廻館跡では、中国から輸入された銭 766 枚がかたまって出土しました。

中世陶器（戸宮前館跡）

（展示担当　中山浩彦）

歴史のしおり

貴重な当館の竹細工コレクション

左　所沢市の安松笊　右　本庄市のナッパカゴ

当館の民俗資料のコレクションの代表的なものには、国の重要有形民俗文化財「北武蔵の農具」や、「江戸川の船大工用具と漁船」など７件の県指定有形民俗文化財がありますが、この他にも 40 年を越える館の歴史の中で収集されてきた貴重な資料があります。今回、紹介する県内各地の竹細工のコレクションもそのひとつです。

籠（かご）や笊（ざる）などの製品は、古代から長きにわたって私たちの暮らしや生業（なりわい）に欠かせないものでした。西欧の近代工業が導入された明治期以降になると、一部の竹細工はブリキなどの低廉化した金属素材に取って代わられましたが、石炭燃料の運搬や近代インフラの建設現場での土木作業、さらに鉄道等近代交通による商品輸送の梱包材等で新たな需要が喚起され、昭和 30 年代までは盛んに生産が行われていました。しかし、生活様式や産業形態が変化し昭和 40 年頃にプラスチックなどの石油化学製品や木材の繊維を化学分解して再整形した段ボールなどの新素材を用いた容器の低廉化が進むと、竹細工の需要は急激に減少していきました。そして、現在では特に実用的な製品の生産については後継者もほとんどなく、消滅の危機に瀕しています。

当館の竹細工製品収集が計画的に実行されたのは、昭和 49 年度から 51 年度までの３か年です。竹細工の生産が衰退期に入ったとはいえ、まだ県内各地で竹細工の生産が行われていた時期です。それから 10 年もたっていたら、この資料収集の機会は大きく減っていたことでしょう。初年度には県東部の騎西町（現加須市）の筌（うけ）やビク製品が収集されました。そして、翌年には、県北部の本庄市、秩父地方の皆野町、県南の与野市（現さいたま市）の各生産者が作る日用品から農作業用品などに及ぶほぼ全種類の竹細工が収集され、最終年度には県西部の所沢市と入間郡の越生町の生産者からも同様の製品が収集されました。当時の担当者から直接聞いたのですが、竹細工は同じ形状の製品でも、表皮のついた竹（たけ）籤（ひご）の使用の多少により仕様が違ってくるため、収集にあたっては、通常最も多く生産している標準的な仕様を指定するなど、各地域の製品の通常の状態を収集保存するための配慮がなされたようです。

このようにして収集されたコレクションは、往時の県内各地域の暮らしや生業の特徴を伝える貴重な資料となっています。例えば、江戸時代から竹細工の産地として知られる所沢市上安松の資料は、江戸東京の周辺地域に事例が散見される農家の副業を中心とした竹細工生産の資料等として貴重なものです。また、本庄市で収集されたナッパカゴは、鉄道による蔬菜類（そさいるい）の輸送用に作られた使い捨ての籠です。こうした籠は太平洋戦争後各地で大量に生産されていましたが、蔬菜類の輸送がダンボール箱によるトラック輸送に切り替わるとほぼ完全に消滅してしまったという、近代以降に考案・生産され現在はほとんど見ることのできない竹細工です。

これらの例にみるように、竹細工は職人が近代以前から原型のある製品を作ってきただけではなく実は生産の担い手も農家や武士の副業である場合があったり、製品についても時代によって用途が異なったり、明治以降に海外から入ってきたものや、国内で全く新規に考案されたものもあるなど非常に多様性があり、まだ不明な点も多いのです。当館のコレクションのように詳細な関連情報の付加された実物資料があれば、それを基礎にして聞き取りや文献資料の追調査を行うことで、新たな情報を得ていくことも可能になります。

収集当時、世間一般にはまだありふれた存在という印象が強かったはずの資料の価値を見抜き、調査・収集・保存してくれた先輩たちに感謝するとともに、県民の皆様から頂いたこの貴重な財産を今後も調査・保存・公開していくための努力を続けて参りたいと思っています。　（学習支援担当　服部武）

学芸員ノート

子供も楽しめる博物館を目指して

昨年の夏に開催された企画展「にほん美術夏期學校」や、この夏に開催された企画展「絵で語る埼玉の民話ー池原昭治・童絵の世界ー」では、夏休み期間ということや、子供達にも分かりやすく親しみやすい企画ということで、普段の企画展や特別展の時よりも多くの子供達が来館し、展示を楽しむ様子が見うけられました。ゆめ・体験広場でも、連日多くの子供達が勾玉作りや藍染めの体験を行い、賑わっていました。

また、８月に行われたジュニア博物館講座「昔のくらし調べ隊」では､実際の民俗資料に触れて、観察し展示をするという学芸員の仕事を体験してみる、という子供達にとって印象深い体験になったようでした。

幼い頃から博物館を訪れて楽しむことは、博物館に親しみや興味を持ち、将来の来館者へとつながっていくものと考えられます。そのため、当館では博物館好きの子供を増やし、未来の来館者を育てるために積極的に子供向けの講座や体験を催しているのです。

ジュニア博物館講座の様子

一方で海外においては、乳幼児から中高生くらいまでの子供を対象者とした博物館である「チルドレンズ・ミュージアム」が、約 100 年前にアメリカのニューヨークで開館して以来、現在までに全世界に 360 館程度開館しています。日本では「子供博物館」や「子供のための博物館」と訳され全国に数館が開館していますが、現状ではまだあまり周知されていません。

チルドレンズ・ミュージアムでは展示・体験・館内の設備にいたるまで博物館の全てが子供のためを第一に考えて構成されており、楽しみながら学べることが大きな特徴です。そのため、展示室内は子供の楽しそうな笑い声と陽気な声に溢れています。

展示物は子供の目線にあわせて低く設置されており、資料は模造品を用いる場合もありますがその大半が触ったり、動かしたりすることが可能となっています。図書室や、絵を書いたり工作をしたりする工作室などの部屋を備えている場合も多く、博物館と児童館を併せたような施設です。歴史だけではなく文化・芸術・科学・生物等様々な展示や体験が分野を越えて総合的に行われているために、欧米では校外学習や家族で訪れる知的レジャー施設として非常に人気のある場所となっています。

チルドレンズ・ミュージアムは、子供が主役の博物館です。館内で子供達は非常に生き生きと楽しそうに過ごしています。これは、博物館で働くスタッフが「子供達が楽しんでくれるためにはどんな展示やイベントをすればいいのか」といったことを真剣に考えている結果なのです。

チルドレンズ・ミュージアムの全てを真似することはもちろん不可能ですが、当館においても日々、子供も楽しめる博物館づくりに取り組んでいます。今後も、大人のみならず子供も楽しめる博物館を目指して職員一同様々な展示や体験を企画していきますので、ぜひ御来館くださいますようお待ちいたしております。　　（展示担当　高橋恵美）

熱心に説明を聞いています

THE MUSEUM

歴史と民俗の博物館イベント情報(10月～2月)

埼玉県のマスコット コバトン

■特別展「狩野派と橋本雅邦－そして、近代日本画へ」　10月12日(土)～11月24日(日)
■企画展「圏央道の遺跡～埼玉の発掘調査 西から東から～」　平成26年1月 2日(木)～ 2月16日(日)

10月

4日(金) 民俗工芸実演(現地見学会)春日部市の桐箱作り
5日(土) 博物館裏方探検隊
12日(土) 特別展「狩野派と橋本雅邦－そして、近代日本画へ」オープン
博物館裏方探検隊
18日(金) 江戸組紐ネックレス作り
19日(土) 歴史民俗講座「狩野派と橋本雅邦」
十二単・直衣の着装体験、博物館裏方探検隊
26日(土) 博物館裏方探検隊
27日(日) 特別展記念講演会「木挽町狩野家をめぐって」

11月

2日(土) 博物館裏方探検隊
9日(土) 特別展記念講演会「橋本雅邦の脱狩野派－“日本画”の誕生」
博物館裏方探検隊
16日(土) 十二単・直衣の着装体験、博物館裏方探検隊
23日(土･祝) 博物館裏方探検隊
24日(日) 特別展「狩野派と橋本雅邦－そして、近代日本画へ」最終日
30日(土) 博物館裏方探検隊

12月

7日(土) 火起こし体験教室、博物館裏方探検隊
9日(月)･10日(火) 館内消毒に伴う臨時休館

14日(土) 歴史民俗講座「美術に表された武士の姿と物語」
博物館裏方探検隊
21日(土) 博物館裏方探検隊
28日(土) 博物館裏方探検隊

1月

2日(木) 企画展「圏央道の遺跡～埼玉の発掘調査 西から東から～」オープン
4日(土) 博物館裏方探検隊
11日(土) 博物館裏方探検隊
18日(土) 歴史民俗講座「圏央道の遺跡発掘調査でわかったこと」
十二単の着装体験、博物館裏方探検隊
25日(土) ミニ銅鏡作り、博物館裏方探検隊

2月

1日(土) 博物館裏方探検隊
8日(土) 博物館裏方探検隊
11日(火･祝) 企画展記念講演会「発掘された弥生のムラ(仮題)」
14日(金) 江戸組紐帯締め作り(2月14日・21日)
15日(土) 火起こし体験教室、博物館裏方探検隊
16日(日) 企画展「圏央道の遺跡～埼玉の発掘調査 西から東から～」最終日
22日(土) 鎧の着装体験、博物館裏方探検隊

※イベントは事情により変更になる場合があります。
また、事前に申込みが必要なものもありますので、詳細はお問い合わせください。

◆お知らせ

65歳以上の方の観覧料につきましては、条例改正により平成25年7月1日から一般の方と同額になりました。御理解のほどよろしくお願いします。

◆博物館への資料寄贈をお考えの方へ

まずお電話で御一報ください。
TEL:048-645-8171（資料調査・活用担当）
詳しくはホームページを御覧ください。
http://www.saitama-rekimin.spec.ed.jp/?page_id=261

国宝公開 太刀・短刀
11月23日(土・祝)～平成26年2月2日(日)

特別展「渋沢敬三没後50周年記念事業 屋根裏部屋の博物館―Attic Museum―」
平成26年3月21日(金・祝)～5月6日(火・振休)

■交通機関
東武野田線・大宮公園駅下車徒歩5分

埼玉県立
歴史と民俗の博物館(編集発行)
Saitama Prefectural Museum of History and Folklore
〒330-0803 さいたま市大宮区高鼻町4丁目219番地
TEL. 048-641-0890（管理）
048-645-8171（学芸）
FAX. 048-640-1964
http://www.saitama-rekimin.spec.ed.jp/

埼玉県立歴史と民俗の博物館だより
Vol.8-2 （通巻）第23号
2013年9月17日発行